

広島思い出：京・江戸・博多、そして巴里：8

南野，森
九州大学大学院法学研究院：教授

<https://hdl.handle.net/2324/7170137>

出版情報：福音宣教. 76 (8), pp.10-11, 2022-08-01. Oriens Institute for Religious
バージョン：
権利関係：

8 広島思い出

「京・江戸・博多、そして巴里」と何やら格好をつけている風なわりにはパリの話が全然登場しないではないか、というお叱りが届きそうであるが、今回は、京・江戸、博多ですらなく、広島の話を書かせていただく。

40年近く前の話である。中学2年になってすぐの復活徹夜祭に受洗した私は、その年の8月、「京都教区中学生広島平和巡礼団」に参加した。50名ほどの中学生とともに京都から観光バスで広島まで行くというのは、さながら修学旅行気分であった。車内では他の小教区から参加した初対面の中学生同士が打ち解けられるよう、引率の大学生のリーダーたちがいろいろと盛り上げてくれた。

我々が「投宿」したのは広島のカテドラル、幟町教会の裏にあるカトリック幼稚園であった。到着した日の夕方、白いスータンを着た主任司祭の野間重信神父が聖堂内で説明をしてくださった。そのとき、突然教会の鐘が鳴り、野間神父は「ではみんなでお告げの祈りを」と仰り、そんな習慣のなかった私は驚いた記憶がある。アンジェラスの鐘が鳴る教会。白いスータンの主任司祭。高い天井。外国の大聖堂のような、柱で区切られた身廊もある。そして祭壇奥には巨大なモザイク画。幼い私は、とにかく圧倒され、感動した。

ところが、一つだけ疑問に思うことがあった。聖堂内に聖櫃がないのである。受洗直後で今の百倍は熱心な信者であった中学2年生の私は、毎日聖堂で聖体訪問をすることを日課にしていたから、これには少々ひっかかり、京都に帰ってから先輩信徒になぜ広島のカテドラルには聖櫃がないのかを聞いてみたが、確たる

答えに出会うことができず、結局、野間師に手紙を書いて尋ねることにした。なんとという中学生だろう。今となつては赤面の至りでしかないが、野間師はすぐに丁寧なお手紙をくださった。司教座聖堂はキリストの代理人、使徒の後継者である司教の座が置かれているので、伝統的に聖櫃は別なところに置くのだ、ということであつたように記憶している。でも、聖体のほうが椅子より大切ではないかなどと反論した記憶もあるが、もうこれは私の若気の至り、いわゆる「黒歴史」というもので、今となつてはさつさと忘れてしまいたい一件である。ただ、野間師の寛容さ、そして他教区の中学生にもきちんと自筆の手紙で教会の教えを説明してくださるその真摯さは忘れたくなく、ここに書かせていただいた。

さて、京都教区の平和巡礼団である。団長は田中健一司教で、まだ堅信を受けていなかった私は、おそらくこのとき初めて司教様を見たのではなかったか。勇氣を出して声をかけ、写真を撮っていたりもした。到着翌日には、平和記念聖堂で原爆慰霊ミサが捧げられ、その後、大きな横断幕を持って平和公園まで行進した。そして幼稚園に戻り、被爆者である長谷川儀神父の話を聞き、また従軍司祭としてエノラゲイに祝福を与えたアメリカ人神父の話も聞いた。

中学生にとっては、教会活動という面でも、平和学習という面でも、とても刺激的な2泊3日の広島旅行であった。おそらくアメリカ人神父はすでに帰天されているだろう。野間神父も長谷川神父もちょうど10年前、そして田中司教は昨年の夏、それぞれ帰天された。広島を思いながら、故人を偲んでいる。



みなみの・しげる ●九州大学法学部教授。京都市生まれ。洛星中・高等学校、東京大学卒業後、同大学大学院、パリ第10大学大学院を経て、2002年九州大学助教授、14年教授。AKB48の内山奈月との共著で好評を博した『憲法主義』（PHP文庫）ほか著書多数。



広島平和記念聖堂前で、平和行進出発直前に（1984年8月5日）。私は最前列の右端。野間神父の姿は見えない（白いスータンの神父は当時の助任司祭？）。京都からの引率者として、田中司教、メリノール会のウォルケン神父、京都教区の越知健神父、ウルスラ会（だったと記憶している）のシスターの姿も見える。

